

食育だより

令和5年6月発行
野木町教育委員会

6月は食育月間です

毎月18日は「のぎ地産地消の日」
毎月19日は「食育の日」です

◆ 学校における食育の取り組み 食育って何？

食育とは、子どもたちがさまざまな経験を通じて、食に関する知識と、食を選択する力を習得し、健全で豊かな食生活を送れる人に育てようとすることです。

野木町の小中学校でも、児童・生徒一人ひとりが食に対して興味・関心がもてるよう、食教育を進めています。



▲給食週間(おにぎり作りました)



▲学校農園活動



▲JAからのお米贈呈



▲JAからのとちあいか贈呈



▲学級活動における食育活動



▲保健体育の授業における食育活動

◆給食で使われている主な栃木県農産物

野木町の学校給食では、栃木県の特産物や地場産物を使った献立を工夫しています。季節によって、栃木県や野木町で作られている農作物を給食で使用しています。

米(栃木県)

野木町で作っている「コシヒカリ」という品種のお米で、炊いています。



パン(栃木県)

栃木県産の小麦「ゆめかおり」を使用、米粉パンは、県産米「あさひの夢」を使用したパンです。



牛乳(栃木県)

牛の乳を毎朝しぼってタンクローリーで牛乳工場に運ばれます。牛乳工場では、牛乳やヨーグルトなどが作られています。



かんぴょう(栃木県)

全国の生産量の98%を栃木県が占めています。かんぴょうは夕顔という野菜の実を薄くむいて乾燥させたものです。



トマト(野木町)

野木町では、トマトづくりの農家がたくさんあります。給食では、「トマトぶっかけうどん」の他にもスープ等に使っています。



にら(栃木県)

にらは栃木県が生産量が全国第2位です。県内全域で作られています。にらには疲労回復効果があります。



昨年度「地場産物活用状況調査」の地場産物活用割合(金額ベース)が野木町は県内2位でした。

今年は栃木県誕生150年!

6月15日は『栃木県民の日』です

「栃木県民の日」は1873年6月15日、旧栃木県と宇都宮県が合併して、ほぼ現在の栃木県の形が誕生したことに由来しています。

また、その地域で昔から生産されている作物なども、地域の気候や風土などに合ったものが多く作られています。今年は「栃木県誕生150年記念献立」を6月14日(水)に実施する予定です。

